

2023 年度第 2 回技術手法委員会 議事録(案)

一般社団法人サプライチェーン情報基盤研究会

1. 開催日時 : 2024 年 3 月 12 日 (火) 14:00~16:00
2. 開催場所 : ハイブリッド会議
機械振興会館 5S-1 会議室
オンライン (ZOOM)
3. 出席者 : (順不同・敬称略)
- | | | |
|------|-------|---------------------------|
| 特別会員 | 清友 大造 | 一般財団法人日本貿易関係手続簡易化協会 |
| 特別会員 | 兼子 邦彦 | 一般社団法人 SCCC リアルタイム経営推進協議会 |
| 特別会員 | 遠城 秀和 | IT コンサルタント |
| 幹事会員 | 香坂 真人 | 株式会社 JSOL |
| 幹事会員 | 柴田 鎮雅 | 日本情報通信株式会社 |
| 正 会員 | 岡村 俊也 | 株式会社グローバルワイズ |
| 正 会員 | 佐合 翔平 | 株式会社グローバルワイズ |
| 正 会員 | 猪股 洋二 | パティオシステムズ株式会社 |
| 正 会員 | 森 安代 | NEC ソリューションイノベータ株式会社 |
| 正 会員 | 惣代 和明 | NEC ソリューションイノベータ株式会社 |
| 賛助会員 | 川内 晟宏 | 特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会 |
| 賛助会員 | 野田 和巳 | 特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会 |
| 賛助会員 | 笠原 浩平 | 石油化学工業協会 |
| 事務局 | 菅又 久直 | 一般社団法人サプライチェーン情報基盤研究会 |

出席者 14 名

4. 議事概要

2023 年度第 2 回技術手法委員会は、以下の議事を実施した。
(資料：技術手法 2023-2-01 第 2 回技術手法委員会議事次第)

4-1. 2023 年度第 1 回技術手法委員会議事録確認

事務局菅又より、資料に基き、2023 年度第 1 回技術手法委員会の議事録説明が行われ、異議なく確認された。

(資料：技術手法 2023-2-02 第 1 回技術手法委員会議事録案)

4-2. 2023 年度技術手法委員会活動総括

2023 年度技術手法委員会の活動及び国際会議について、事務局菅又より説明が行われた。

- ・ 技術手法委員会
- ・ 国際連携タスクフォース
- ・ 業界横断 EDI タスクフォース
- ・ 国連 CEFAC 会議

- ・ AFACT 会議
- ・ TC154 総会

(資料：技術手法 2023-2-03 2023 年度技術手法委員会活動総括)

4-3. 貿易金融デジタル化推進プロジェクト報告

2023 年度、経済産業省補助事業の一貫として JASTPRO より SIPS が受託した「国際標準の実装を通じた貿易分野のデータ連携を促進する取組・国際標準規格への取組」の活動状況につき、事務局が資料に基づき説明を行った。

(資料：技術手法 2023-2-04 貿易金融デジタル化推進プロジェクト)

4-4. 2024 年度技術手法委員会活動についての自由討議

事務局より、資料に基づき、2024 年度活動計画で考慮したい項目の紹介が行われた後、出席委員の自由発言が促された。

(資料：技術手法 2023-2-05 2024 年度活動計画フリーディスカッション)

【自由発言】

清友委員：

- ・ ICC/DSI で進める電子 BL 標準化との連携を進めたい。
- ・ 現状大きすぎる参照データモデルを使いやすくできないか。
- ・ 勧告 48 (NTFB (National Trade Facilitation Body) における民間企業の活動) につき認知度を上げたい。
- ・ CRM (Critical Resource Management) プロジェクトの進捗がはかばかしくない。

兼子委員：

- ・ 政府（経産省、デジタル庁など）や団体（商工会議所、中央会など）との連携を進めるべき。
- ・ ウラノスと国連 CEFACT との連携ができるとよい。
- ・ eTAX の普及は 75%にとどまっており、更に普及を進めるために EDI を活用することを考えたい。

遠城委員：

- ・ デジタルツウィン（全てのリアルをデジタル化）を進めたい。
- ・ ドメインが細分化して、個々のデータが交換できない。
- ・ 政府のデジタル化政策が国内対策ばかりで、国際対応が手薄。デジタル庁との連携を考えるべき。

香坂委員：

- ・ JSOL では ISO20022 に基づく海外送金などを、SWIFT サービスビューローでサービスを提供している。
- ・ ZEDI への新たな取り組みを進めたい。
- ・ ウラノスにどう関与してゆくか検討したい。

柴田委員：

- ・ 企業活動と切り離れた標準化等の活動は難しい。
- ・ ウラノス等の普及を支えるため、プロバイダーとして何ができるかを考えたい。

岡村委員：

- ・ ウラノス推進につきデジタル庁と連携したい。
- ・ 現在の国連 CEFACT 標準メッセージは情報項目が多すぎる。もっとスリム化できないか。
- ・ 標準として使えるコードの整備を進めたい。

猪股委員：

- ・ 現在、電材卸中心の EDI サービスを提供している。中小企業共通 EDI により、電気事業者やメーカーにも普及させたい。

森委員：

- ・ 自工会で採用している EDIFACT の動向につき情報収集するために参加している。

川内委員：

- ・ 大企業のインボイス対応がバラバラで JP-PINT に繋がらない。大企業の業界 EDI と繋がるために、参照データモデルでアプローチしたい。
- ・ 納税業務の効率化のため、取引情報と会計情報の連携を試みたい。
- ・ ウラノスとのデータ連携を検討したい。

野田委員：

- ・ 企業間データ連携の基盤としてウラノスが提唱されているが、日本の固有化（ガラパゴス化）は避けたい。

笠原委員：

- ・ 石油化学 EDI と他の業界 EDI や中小企業共通 EDI と連携したい。
- ・ 欧州（CATENA-X 等）では、DPP（Digital Product Passport）が検討されている。DPP の標準化・普及促進の動向を注視したい。

事務局：

- ・ 委員各位の意見・提言などを参考にしながら 2024 年度技術手法委員会の活動計画を立案してゆく。

4-5. 今後の予定

*SIPS 理事会：5 月

*SIPS 総会：6 月

以上

配布資料：

- | | |
|----------------|------------------------|
| 技術手法 2023-2-01 | 第 2 回技術手法委員会議事次第 |
| 技術手法 2023-2-02 | 第 1 回技術手法委員会議事録案 |
| 技術手法 2023-2-03 | 2023 年度技術手法委員会活動総括 |
| 技術手法 2023-2-04 | 貿易金融デジタル化推進プロジェクト |
| 技術手法 2023-2-05 | 2024 年度活動計画フリーディスカッション |